



秋田県にかほ市

株式会社ロンド

まちづくりを、
産業に。



MISSION

まちづくりを産業に。

一人からはじまるまちづくりを、大きなチカラに変えて、
地域と共生しながら、まちづくり活動を経済活動へ転換する。

一般社団法人から、株式会社へ

令和3年に一般社団法人として設立し、令和6年4月に株式会社化しました。
補助金の枠内で終わる活動ではなく、収益性と運営体制を備えた「続く事業」を
つくるため、自ら事業者として責任を持つ立場を選んでいます。

ロンドがやっていること



企画で終わらせない、6つの動き

- 01 基本構想・事業計画の策定
- 02 協議会づくり・合意形成
- 03 建築・空間デザイン設計
- 04 商品開発・販路拡大支援
- 05 起業・事業開発のハンズオン
- 06 施設の運営（自社で担う）

設立	本社	体制	連携地域
令和6年 4月30日	秋田県 にかほ市	12名 +顧問4名	8県 12市町
主要取引先 株式会社ジェイアール東日本企画・秋田県・にかほ市・TDK株式会社・株式会社リビタ			

地域のクッション材として関係者を円滑に調整します。



地域住民・地域事業者

「この集落を子や孫に残したい」
「うちの魚をもっと知ってほしい」

思いは強い。ただし事業計画書の形にする言葉と、
外部と契約する手続きに慣れていない。



行政

「計画・要綱・年度・交付要件」

制度と予算は持っている。ただし単年度と公平性の
枠があり、一社と機敏に組む動きは取りにくい。



都市部企業のみなさん

「KPI・稟議・実証の再現性」

技術と人材とノウハウがある。ただし誰に何を聞
けば地域が動くのかが、外からは見えない。

ロンドが
あいだに入ること、

翻訳する

住民の思いを事業計画の言葉に
、企業のKPIを現場の段取りに置
き換える。

合意をつくる

自治会・協議会・行政・関係機
関の調整を、こちらで引き受け
る。

一緒に設計する

地域の実情に合う形に事業を組
み替え、使える制度・交付金に
接続する。

実装まで伴走する

実証で終わらせず、収益と運営
体制まで。必要ならロンドが運
営を担う。

私たちは外から事業を持ち込む側ではなく、この地域に住み、この地域で事業をしている側です。
だから、合意形成の速さが違います。

人口2.1万人の市に、「山・海・ものづくり」が同居しています



日本海から鳥海山まで直線約16km。国指定天然記念物「象潟」九十九島（105島）を含む鳥海山・飛島ジオパークの中核エリア。

2005年に3町が合併。性格の違う3つの地区が並ぶ



仁賀保

テクノロジー／先端
技術



金浦

チャレンジ精神／漁
業・起業



象潟

豊かな自然／観光資
源

この地域が持っているもの

秋田県内屈指の「ものづくり」集積

生産用機械器具製造業は出荷額 約374億円で県内1位、電子部品・デバイスは約832億円で県内2位。TDKにかほ工場を核に、精密加工の技術と人材が集まっています。

4つの漁港と、山からの農の恵み

象潟・小砂川・金浦・平沢の4漁港に漁船108隻。耕地3,650haで米・そば・ねぎ・花き、大竹地区は「北限のいちじく」の産地です。

動いている「人」と、使える「場」

日本で3番目に古い酒蔵、漁師、農家、ゲストハウス、運動教室。廃校を活用したわくばにかほを含め、実証の受け皿になる遊休公共施設があります。

総人口

21,311 人

令和7年10月1日推計

高齢化率

41.5 %

全国29.3%（令和6年）

面積

241 km²

うち林野15,680ha

資源はある。足りないのは「担い手」と「売る力」です

① 農業

地域 資源

耕地3,650haと、独自の産物

米・そば・ねぎ・大竹地区は「北限のいちじく」の産地。九十九島の景観は観光資源そのものです。

② 水産業

4漁港・漁船108隻

象潟・小砂川・金浦・平沢。経営体数は県内で男鹿市に次ぐ規模。はたはた、さけ・ますなど多様な魚種。

③ 地域産業・事業承継

県内1位のものづくり技術

生産用機械器具製造業の出荷額は県内1位。精密加工の現場と技術者、日本で3番目に古い酒蔵もあります。

一方で の課題

5年で経営体の4分の1が消えた

−23.2 %

農業経営体数 1,166 → 895経営体（2020→2025年）

基幹的農業従事者は1,438人→946人（−34.2%）、平均年齢68.8歳。数年後に誰が九十九島の田を維持するのかが現実の問いです。

漁師の3人に2人が60歳以上

67.1 %

秋田県の漁業就業者のうち60歳以上（2023年）

にかほ市の漁業経営体は92→75（−18.5%）。魚は獲れても、獲る人と売る先が細っていく。市も後継者問題を課題に挙げています。

後継者不在率は全国最悪

73.7 %

秋田県企業の後継者不在率（2025年・全国1位）

2年連続で全国唯一の70%台。技術も商品もあるのに、継ぐ人と伝える人がいない。市も産業人材の育成・確保を課題としています。

だから 連携で

少人数で回る農業へ

スマート農業・省力化機器の実証フィールドに。市も総合戦略に「スマート農業等の導入支援」を明記。受入農家との段取りは私たちが組みます。

獲った魚を、高く届ける

加工・D2C・体験型観光で単価を上げる。「漁師図鑑」で27名の漁師と、「漁船酒madara」で商品化の型まで、すでに現場との関係があります。

技術を、次の担い手へ

事業承継・人材育成・DXの実装先に。わくばにかほで30名以上の起業家を輩出した育成の仕組みを、そのまま使えます。

廃校を、起業家が生まれる場所に変えました

旧上浜小学校 → インキュベーション施設「わくばにかほ」 | 2021年5月オープン・ロンド運営



上：わくばにかほ（旧上浜小学校）／下左：地域事業者と若手をかき混ぜるオフサイトミーティング／下右：地域住民とのワークショップ

01 課題

上浜地区の小学校が閉校。建物は残るが使い道がなく、若者が地域で挑戦できる場も、都市部とつながる接点もありませんでした。

02 ロンドがつないだ相手

にかほ市・秋田県・地域住民・地域事業者、そして株式会社ジェイアール東日本企画。廃校活用の合意形成から設計方針、運営計画までを一本の線でつなぎました。

03 つくった仕組み

サテライトオフィス・コワーキング・実証スペースの整備（ハード）と、アクセラレーター／インキュベーターの育成プログラム（ソフト）を両輪で設計。運営はロンドが担っています。

04 成果と、次の展開

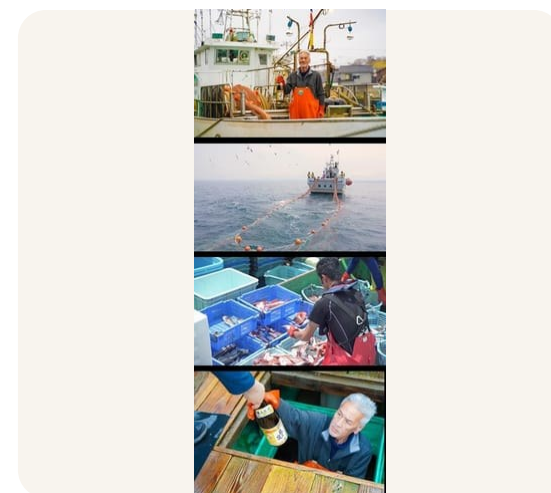
30名以上の起業家を創出。現在は、にかほ市と首都圏をつなぐ戦略的インキュベーション拠点として、実証事業とオープンイノベーションの受け入れを強化しています。

企業のみなさんが入れる場所：実証フィールドの提供、アクセラレーターへのテーマ持ち込み、地域プレイヤーとのマッチング。滞在・作業環境はここで完結します。

地域資源を商品と受け入れ体制に変えてきました

漁業の後継者問題に、発信と商品で向き合う

漁師図鑑 + 漁船酒madara



課題：漁獲量の減少につながる後継者問題。つないだ相手：にかほ市（業務委託）と市内漁港の漁師。つくったもの：27名の漁師を取材した「漁師図鑑」と、底曳き漁船に酒を積み日本海の波で熟成させる滞在型観光商品「漁船酒madara」。次の展開：漁業の魅力発信から、体験・宿泊とつながる看板商品化へ。

企業社員を、地域課題の現場に受け入れる

あきた田園ライフ「半農半X」



課題：農林漁業の担い手確保と関係人口の拡大。つないだ相手：秋田県、受入農林漁業者（いちじく・ねぎ・花卉ほか）、都市部企業。つくったもの：本業をリモートで続けながら1～2週間滞在し、農林漁業に従事するプログラム。参加は令和4年度6名・令和5年度5名。次の展開：企業単位での受け入れへ。

すでに企業と、こう組んでいます

地域課題を解決する事業
現場で考える

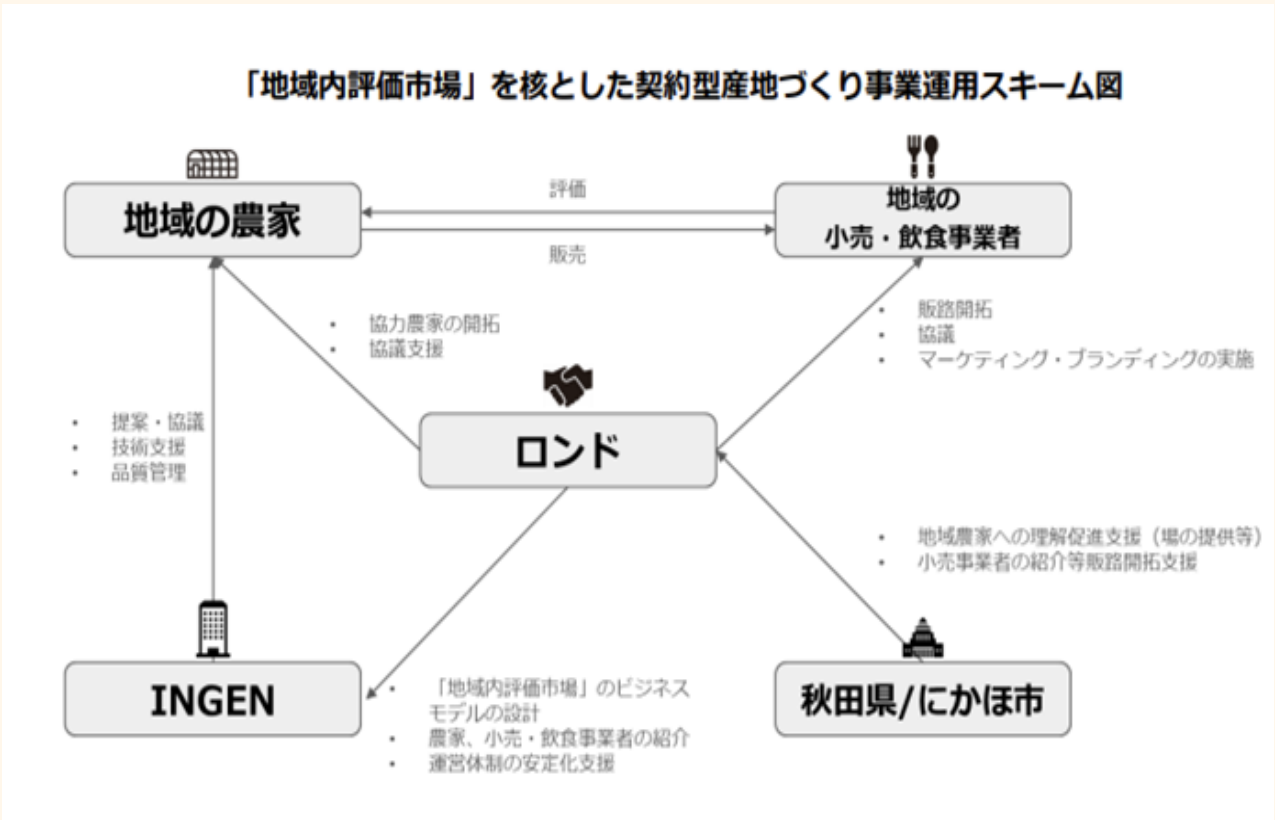
株式会社INGEN

農業スタートアップINGENと連携し、にかほ市で新葉物「骨太リーフマン」の契約型産地づくりを推進。中間支援組織として関係者をつなぐ「地域内評価市場」を設計し、若手農家支援と産地育成を行っています。



中間支援組織としての実績

「地域内評価市場」を核とした契約型産地づくりの取組が、農林水産省の事例として掲載されました。



農業スタートアップの株式会社INGENと連携し、新たな葉物作物「骨太リーフマン（ソフトケール）」を起点に、にかほ市で契約型産地づくりに取り組んでいます。

弊社は、中間支援組織として自治体・農家・小売・飲食事業者をつなぎ、地域内で品質評価と消費が循環する「地域内評価市場」を設計。若手農家の持続的な経営支援や、地域ぐるみで産地を育てる仕組みづくりを推進してきました。

企業と農山漁村をつなぐ中間支援組織
—連携の実践に向けた手引き—

株式会社 Ridilover
農林水産省 令和7年度 農山漁村振興交付金
地域資源活用価値創出推進事業（創出支援型）
令和8年3月

紹介：株式会社ロンド



秋田県にかほ市象潟町大砂川釜道1-1
代表取締役 金子晃輝
15名

創出支援
・ 地域課題解決
・ 地域内外の交流創出
・ 集落支援
組織類型
ローカルハブ型
組織の特徴
ロンドは、地域課題の深掘り・課題の特定・実行管理まで企業に対してハズオン支援を行うローカルハブ型の中間支援組織。地域に入り、地域住民、行政を巻き込み、地域参入を検討する企業に対して、ビジネスモデルの策定から実行まで伴走支援を行える点
が特徴。

ぜひ、この後お話しさせてください

皆さんの技術やノウハウの
にかほで活かし方を
すり合わせさせてください。

課題は、私たちの側にあります。技術とノウハウは、みなさんの側にあります。
その間をつなぐ調整と、実装までの伴走は、私たちの仕事です。
支援してほしいのではなく、一緒に事業をつくりたいと思っています。

この後のブースで、こんな話ができます

御社の技術が使える
現場を、名前で挙げます

秋の現地フィールドワークの
日程を、その場で相談

使える交付金と、
年度スケジュールの整理



株式会社ロンド

秋田県にかほ市象潟町
大砂川釜道1-1（わくばにかほ）